

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	安城市立サルビア学園		
○保護者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 26
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・同施設内の相談支援事業所と連携を行ったり、情報交換をとったりすることで、利用者の支援の充実を図ることができる。	・利用者の見学希望の段階から情報を共有し、よりよい支援ができるようにしている。	・今後も同施設内という関係を活かして、情報共有を丁寧に取りながら支援を充実させていく。
2	・多職種（作業療法士、言語聴覚士、心理士、保育士）の職員が利用者の支援にあっている。	・ケース検討会、研修を計画し、支援の充実と職員の資質向上を図っている。それ以外でも、利用者の発達や特性を踏まえた支援を相談・検討し支援を行っている。	・これからも専門性を活かし、連携して療育の向上を図っていく。
3	・サルビア学園に関係する人の協力のもと、利用者支援や保護者支援の内容充実を図っている。	・卒園児の保護者で結成されたバンドによる演奏会や卒園児の保護者との座談会等行事を企画し保護者支援を行っている。	・今後もつながりを大切にし、行事等に継続を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流やきょうだい同士の支援が限られた機会となっている。	・計画立案するが、利用者の家庭状況やサルビア学園の体制等を考慮するものの、実施までにいかず計画で終わっている案がある。	・実現に向けて対応できる体制を整える。
2	・外国籍の利用者が増えている。保護者参加の行事への周知方法が十分でない。	・手紙やメール配信等で行事の連絡をするとともに、個々に電話や直接話をしている。欠席されると十分に理解していなかったのか、他に方法はなかったのかを苦慮する。	・利用者と保護者が一緒に経験できるように伝達方法を工夫する。
3			